

活動の背景・目的

現在、林業において担い手の不足はもとより、深刻な人口減少や少子高齢化等によりその維持・増加が極めて困難な状況にあります。担い手不足を補うための技術の発展や異分野との連携の強化は今後の林業における喫緊の課題であると考えられます。こうした背景から、網走南部森林管理署はその地盤づくりとして人々が森林・林業への関心を抱くきっかけとなる機会を作るため、有志職員による木育チーム「もりのめ」を令和5年12月に発足し、小清水町を中心に木育活動を実施してきました。

取組の内容・成果

目 標 人々の森林への興味・関心の“芽”と森林管理を考える“多様な視点”を育み広げる

活動の軸 ①「遊び」と「学び」の両立 ②幅広い世代を対象とした活動の展開

上記の目標と2つの活動の軸を掲げて活動する「もりのめ」では、認定こども園から中学校までの様々な依頼に応じた企画を展開し、令和6年度は2件（計2回）、令和7年度は3件（計7回）の依頼に対応しました。また、子どもから大人までを対象とした一般の方むけにもイベントを開催しました。

事例 【出張授業】小清水小学校3年生総合学習「共に生きる社会～森を守る仕事編」（R7.9～10）

①森林のイメージをつかむ・親しむ→②森林について学ぶ→③森林管理の現場を見るという「遊び」と「学び」を取り入れた全3回の体系的な授業を組み立て、「木を伐ることも森を守ること」について学習していただきました。

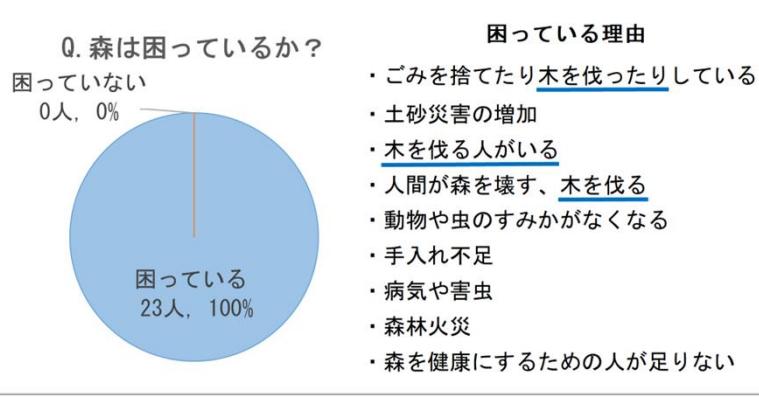


図1：事前アンケートの結果



2年間にわたる取組の成果として、当署の存在を認知してもらい依頼件数が増加したことにより地域で木育のニーズがあることが明らかになったほか、図2のような木育の効果の好循環が現れ始めたということも見えてきました。



図2：木育の効果の好循環

課題・今後の展望

活動における課題としては、企画内容が比較的子ども向けに偏っていた点などが挙げられます。これに対して、中学生以上の参加者が森林・林業について主体的に考えることのできるプログラムなど、大人を対象とした企画づくりに取り組み、さらに効果的な活動の実施を目指します。また、人事異動に影響されないチーム体制の構築と維持にも力を入れていきます。